

TOKY02020オリンピック・パラリンピック ボート競技の医事部活動参加まで

国際的に活躍できる理学療法士の人財育成を図るため
スポーツ現場で即戦力として対応できる知識や技術の研修会や
語学を用いたコミュニケーションスキルなど
国際大会の舞台で外国人選手との関りを持つ上で必要な研修会を開催
一定の水準を担保するための独自の技能検定を設け
事前に大会に参加できる人員の確保

2017年 国際スポーツ競技対策委会設立

TOKYO2020オリンピック・パラリンピック開催をきっかけに 国際競技大会等で多くの理学療法士が活躍できるよう 「スポーツ理学療法の質的な向上」を目指し / そのための人財育成や活動機会の獲得を図る

委員会活動初期のコアメンバー

男性8名 女性2名

10名

2017年当時で経験年数10年目~27年目

埼玉県理学療法士会スポーツリハビリテーション推進部にてサポート活動経験者 日本スポーツ協会公認AT資格所有者 障がい者スポーツトレーナー所有者 プロスポーツ、大学スポーツでのチーム帯同スタッフ経験者 国際スポーツ大会への帯同経験者(アジアパラゲーム仁川、ドバイ) 海外経験豊富な大学教授(スポーツや徒手療法を得意としている)

人財育成:研修会事業

2016 2017 2018 2019 2020 2021

スポーツ理学療法の役割

英語でのコミュニケーション

ドーピングについての基礎知識

スポーツ現場における物理療法

テーピングテクニック

シナリオ症例に対する評価と治療

屋外スポーツ現場における対応、暑熱対策

感染予防対策ガイドライン

応急処置と救急搬送器具の使用手順

スポーツ現場でのHandsOnによる評価・治療

東京2020オリンピック・パラリンピックボート競技医事部活動報告

技能検定



語学におけるコミュニケーション

日本国内でクリニックを開業している外国人 海外経験豊富な大学教員等を 講師として語学研修会を開催

問診・コミュニケーションの取り方についてのデモンストレーション 使用頻度が高く簡単だと思われるフレーズを学んだ後に受講生同士でスピーキングができる機会 応用編として講師が選手役となり問診から評価・治療のコミュニケーションの実践を繰り返す機会

基礎編例

日本人が発音しやすく応用しやすいフレーズを用い 大きな声で発音したり受講生同士で 会話する機会を設けることで英語に慣れる

"Tell me when you start to feel pain"
"Tell me exactly where you feel the pain"

"Can you tell me about the injury"
"What happened?"
"When do you feel the pain?
"When do you able to walk?"
"Are you able to walk?"

人財育成:技能検定

スポーツリハビリテーション 技能検定合格者46名 →国際大会協力・参加メンバー

搬送法・固定法 (包帯・三角巾の2種類)

テーピング技術 (足関節:基本のテーピング)

傷病者対応のシュミレーションテスト

年1~2回実施



サポート活動期間・人員

海の森水上競技場

オリンピック大会期間

2021年7月18日(日)~31日(土)の14日間

パラリンピック大会期間

2021年8月22日 (日) ~30日 (月) の9日間

参加者は全て前述の技能検定合格者のうち24名 1日(8時間シフト)あたり平均6~7名が活動



活動内容:医務室

選手が来室した場合

- →医務室前で、看護師が体温を確認 (体温37.5°C以上 covid19可能性の場合、隔離室へ)
- ➡問題なければ医務室に誘導

医師による診察

(問診→評価→治療)

- →看護師が補助業務
- ※理学療法士も一部補助
- ・症例の記録手伝い(メモ記載)・アイシング対応 ・ポジショニング確保
- ・選手の監視・シーツ交換

医師から必要性があると判断された場合、理学療法士に依頼

- →テーピング(評価→アプローチ)
- →コンディショニング (評価→アプローチ)

活動内容:FOP

ポンツーン付近での活動

ボート競技のゴールエリア付近の ポンツーン (ゴールエリア付近の浮桟橋) で 選手が疲労困憊していたり 熱中症などの体調変化等に注視しながら 声掛けや必要に応じてアイスタオル水などを手渡す

動けない選手が入れば、必要に応じて担架や事椅子での搬送を実施する

利用者の国籍 処置内容等

労作性熱中症、疲労困憊における脱力、意識朦朧の選手などの対応が多く 医務室での点滴やアイシング

FOPでの車椅子、バックボードストレッチャーによる搬送業務などが中心的であった

バヌアツ ドイツ イタリア 中国 ウルグアイ 日本 ルーマニア イギリス ベルギー

細かい選手とのやり取りは医師や通訳が行った 理学療法士も声掛けや対応時などは直接コミュニケーションが必要 参加者はスキルに応じて

ポケトークやスマートフォンアプリ (VoiceTra) などで補った

その他サポート活動実績

さいたま国際マラソン大会 ストレッチ・マッサージ・インソール調整・テーピング処置

パラドリームアスリートプロジェクト コンディショニングの指導研修と実技

2019世界ボートジュニア選手権 大会参加選手における理学療法サービスの実施

東京2020アジアオセアニア大陸予選ボート競技大会 大会参加選手における理学療法サービスの実施

東京2020オリンピック・パラリンピックボート競技大会 大会参加選手における理学療法サービスの実施





2021

2022

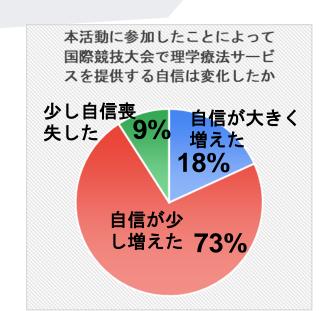
大会を終えて

一次救命処置、搬送・応急処置(テーピング含む)などが求められ いつでも実践できるよう改めて準備が必要と感じた しかし、臨床場面における日常生活動作などの車椅子移乗や 補装具などの着脱など本来、医療機関、施設などで関わっている事自体が 国際大会においても特別ではないということも実感

語学でのコミュニケーションスキルについては 診療の手順(問診→評価→アプローチ)など 競技に特化したシナリオ形式として覚えておく必要性と コミュニケーションを積極的に行うために場慣れする機会の必要性を感じた

アンケート







デメリット・休日の減少

- 仕事量の増加

・職場との調整

• 拘束時間に対する金銭面が乏しい

本活動に参加することのメリット

国際スポーツ競技大会で トップアスリートに対する 理学療法サービスを経験 できたという自信

スポーツ理学療法分野だけでなく 関係機関とのネットワーク信頼関係の構築 今後の活動のすそ野が広がる



活動財源

(公社) 埼玉県理学療法士会の事業として予算化

研修会:講師代、実技アシスタント代の確保サポート活動:アシスタント代として確保他、消耗品・備品代、交通費・昼食費等※他団体からの依頼を受けてのサポート活動や講師については先方からの日当、交通費、弁当、宿泊代など提供を受けるケースも

これからの活動財源

今後の事業拡大に合わせて予算申請を行う

※拘束時間に対する日当が低い事や 士会全体でのスポーツ関連費用の増加などの問題に対して 主催団体からの一部提供ついての働きかけなど検討



今後の課題と方向性

国際競技おける水準の医療サービスの展開

救急搬送・ポリクリニック内における 理学療法活動および、コンディショニング活動の充実 対応競技の充実による外国人選手への対応可能な人財増

人財育成

スキルの標準化:講習会、ブラッシュアップ研修の開催 人財確保:技能検定を増やし各競技 日程に対応可能人員を担保

学会連携 <u>日本スポー</u>ツ理学療法学会

广想活動





公益社団法人埼玉県理学療法士会 国際スポーツ競技対策委員会